

令和6年度 第2回岐阜支部評議会概要報告

開 催 日 時	令和6年10月23日(水) 10:00~11:30
開 催 場 所	協会けんぽ岐阜支部会議室
出 席 評 議 員	永田評議員(議長)、井上評議員、梅津評議員、大杉評議員、川本評議員、佐伯評議員、長崎評議員(五十音順)
議 題	(1) 令和7年度保険料率について (2) 岐阜支部の課題を踏まえた今後の取組について
議 事 概 要 (主 な 意 見 等)	評議員9名中7名が出席。 各議題について事務局より資料に基づき説明。主な意見等は以下のとおり。 令和7年度保険料率について(資料1、参考資料1-1、参考資料1-2) 【事業主代表】 毎年平均保険料率の変動があると企業経営にも影響があるため、平均保険料率10%をできるだけ長く維持できるようにしていただきたい。 【学識経験者】 人口構成は変わっていくが保険料率のシミュレーションは10年後以降についても試算しているのか。 <事務局> 今後10年後までを試算している。 【学識経験者】 準備金残高が減少し続けた場合、いずれ平均保険料率を上げる議論をするのか。 <事務局> 経済の動向や制度改正にもよるが、このままでは平均保険料率10%維持することすら厳しくなるため、いずれどこかで平均保険料率を上げる議論をしなければならないと考えている。 【学識経験者】 最低賃金の引き上げを選挙公約に掲げている政党もあるので協会けんぽの収入にプラスに働くのではないかと。 <事務局> 仮に最低賃金1,500円を2030年までに達成しようとする年7%程度賃上げをしていく必要がある。協会けんぽの加入事業所はほとんどが中小企業であるため、平均標準報酬の伸び率は賃金上昇率よりも低くなる傾向があり、現実的には難しいと考えている。

【事業主代表】

現行の制度は現役世代の負担が重くなっており、特にあまり医療機関を受診しない若い世代は恩恵を受けられないため、今後も国民皆保険制度のもと高齢者を支え続けていくことに不満が出てこないか危惧している。現役世代のためにも平均保険料率10%をできるだけ長く維持することが妥当ではないかと思っている。

【被保険者代表】

現時点で赤字の健康保険組合を受け入れる話はあるのか。

<事務局>

岐阜支部に現時点で話はない。

【学識経験者】

短時間労働者の方への被用者保険適用拡大により、どのような影響があるか教えてほしい。

<事務局>

標準報酬が低く、年齢が高い方が加入されるケースが多いと思われるので、医療費がかかり財政にマイナスの影響があるのではないかと推察している。今後の動向を確認していきたい。

【被保険者代表】

平均保険料率10%をできるだけ長く維持することに異論はない。ただし、保険料率のシミュレーションなどを見る限り、現状のままでは持続可能な制度とは言い難い。制度の抜本的な見直しを行う時期に来ているのではないかと。

【被保険者代表】

若者の健康保険料の負担に疑念があるという話について、実際にそれを肌で感じている。特に10代、20代の若い世代が見知らぬ高齢者を支えたくないという意見が多いと感じる。そのため、自分が給付を受ける側になった際に今後も支えてもらえるか不安に感じているので、今のうちにある程度、準備金を確保して制度を維持できるようにしてもらいたいと考える。

【学識経験者】

現行の制度は現役世代の負担が重くなっており、社会の変化に合わせて制度を考えていく必要がある。

<事務局>

岐阜支部評議会の意見として令和7年度の平均保険料率は10%とすること、あわせて可能な限り長期にわたり10%を維持すること。保険料率の変更時期については令和7年4月納付分(3月分)からでよいと報告してほしいか。

【評議員一同】

異議なし

岐阜支部の課題を踏まえた今後の取組について(資料2、参考資料2-1、参考資料2-2)

【学識経験者】

時間外受診が多い診療科はわかるか。

<事務局>

令和6年5月分レセプトのみのデータだが皮膚科や内科が多い。

【学識経験者】

定期健診から生活習慣病予防健診への切り替えが進まないのは、胃部X線検査を嫌がる事業所が多いからか。

<事務局>

運送業や工場のライン作業など職種によってはそのような意見は多くある。定期健診より生活習慣病予防健診のほうが費用面でのメリットはあるが、胃部X線検査が必ずついてくることを業務上のデメリットと考える事業所はある。

【学識経験者】

胃部X線検査について国が推奨しているのは50歳以上からなので、選択制にできるように検討してもらいたい。

【学識経験者】

がん検診項目受診後の受診勧奨の実施で令和7年度から胸部X線を選んだ理由は何かあるのか。

<事務局>

先行して3支部が受診勧奨を実施しており、一定の効果が得られたため全国展開をする。これ以外のがん検診の拡大についても、今後の状況を見て検討していく。

【被保険者代表】

当社もLINEなどSNSを活用しているが、労力に見合った効果が出ていないと感じている。LINEを活用することは良い取り組みだと思うが、LINEで友だち追加してもらうためにはうまみを感じられるアカウントにする必要がある。登録した場合に例えばマイナ保険証の質問をチャットボット形式で回答してもらえとか、申請書類を取り寄せられるなどうまみを感じられる運営方法を検討してほしい。

<事務局>

11月から運用する際の参考とさせていただく。

【学識経験者】

被保険者と被扶養者で受けられる健診の違いがなくなっていくことは良いことだと思う。若年層の健診の効果はこれからだと思うが、健康意識の向上を目的に実施するということであれば、健診後の結果について説明や保健指導を受けられると良い。

特 記 事 項

・傍聴者なし

・次回開催は令和7年1月の予定